

平成 27 年度 専門学校デジタルアーツ東京  
学校関係者評価報告

平成 27 年 9 月 9 日

平成 26 年度学校自己評価（基準日：平成 27 年 3 月 31 日）をもとに評価実施



## 平成 27 年度 学校関係者評価報告書

学校法人菅原学園  
専門学校デジタルアーツ東京  
学校関係者評価委員会

学校法人菅原学園 専門学校デジタルアーツ東京学校関係者評価委員会は、「平成 26 年度自己点検・自己評価報告書」の結果に基づいて学校関係者評価を実施したので、下記のとおり報告します。

### 1. 学校関係者評価委員、事務局

#### (1) 学校関係者委員

業界関係者：和田裕介（株式会社サンステラ フィギュア HP 統括部長）

業界関係者：大平隆幸（株式会社サンシャインコーポレーション 代表取締役社長）

卒業生：大貫良祐（株式会社 SpiceSeed 原型師）

地域住民：平山智邦（地元企業：有限会社ツチキン 取締役）

#### (2) 事務局

学校教職員：生田光幸 専門学校デジタルアーツ東京 副校長

学校教職員：伊藤哲郎 専門学校デジタルアーツ東京 教頭

学校教職員：都築敏明 専門学校デジタルアーツ東京 企画広報部長

学校教職員：有我正則 専門学校デジタルアーツ東京 事務管理部主任

### 2. 平成 26 年度自己点検・自己評価における学校関係者評価

評価項目	評価・質問	評価に対する今後の学校の取組等
(1)教育理念 ・目標	<p>●専門教育のみならず企業・社会人としての人間教育を推進される事は評価できる。人間教育の取り組みを益々強化して欲しい。</p> <p>●業界では、一つの作品を様々な会社と協力して制作することになる。その際に物語の世界観やキャラクターの設定や行程等の打合せ時に、コミュニケーション能力が必須では非教育して欲しい。現場では基礎から教えている。学校でもその取り組みをお願いしたい。 また、仕事の基本の「報・連・相」が大切である。何故必要なのかを学校で今一度学生に認識させて欲しい</p> <p>●ビジネスでの E メール必要性が増している。学校でビジネスメール講座を取り入れたらどうか</p>	<p>○企業人として身につけなければならぬマナーやルールの重要性を改めて確認した。学科長・クラス担任が入学後早い段階より指導する。インターンシップ等に企業に学生を派遣する際にも再度指導して行く事にした。</p> <p>○現在、学内で複数の学科による作品制作を行っている。これを通じ、制作上での意見交換を学生同士で行わせ事を通じてコミュニケーション能力の向上を図る。 またこの制作進行上での「報・連・相」の重要性を教員が指導しながら認識を更に深めるようとする。</p> <p>○クラス担任との連絡も E メールを使用することがあるので、その機会を通じてビジネスメールを指導していく。</p>

(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>●業界でのコンプライアンスでは、著作権や個人情報の管理・保護が注目され、遵守することが必要である。この事項の教育にも学生に指導していただきたい。</li> <li>●豊島区がアートカルチャー都市構想を打ち出しているが学校としてどのように考えているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本校の学科長を中心に企業等に訪問し、現時点における業界におけるコンプライアンスを再確認し学生に還元・指導する。</li> <li>○本校でも豊島区で実施している様々なイベントに積極的にアプローチし、この構想と連携を取りながら活動を推進して参りたい。</li> </ul>
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>●企業へのインターンシップに行く機会を増やして欲しい。学校での学習も大切であるが現場体験によりどのようなスキルが求められているのか理解が深まり今後の技術習得に繋がると思われる。</li> <li>●学校で行っている演劇の鑑賞は演技(人の動き)や演出を学ぶ事になるので是非これからも継続して欲しい。同様の理由から映画鑑賞も推奨してもらえるとクリエーターにとっての感性が豊かになる。</li> <li>●専門分野以外の事を学ぶ選択講座期間を設けて学習することは評価出来る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○2年生からインターンシップを紹介し、ある程度スキルを身に付けた学生が面接を経て能力を認められた学生が始める。</li> <li>学校でも1年次よりインターンシップに備えスキルアップを図り数多くの学生にインターンシップ経験を積ませるように指導していく。</li> <li>○演劇や映画を積極的に課外活動や休暇中等を利用して鑑賞するよう指導していくと共に 演出技法等のチェックポイントも指導する。</li> <li>○専門教育以外に他分野の学習機会をこれからも増やし、一般教養も身に付ける。</li> </ul>
(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本校がある池袋にはアニメイト本店やニコニコ動画本社がある。そことコラボや文化祭のポスター掲示を依頼したり繋がりを強化されてはどうだろうか?</li> <li>●文化祭で卒業生の活躍を紹介したことは評価できる。活躍している卒業生自身を文化祭に招待し在校生との交流も図ったらどうだろうか?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○池袋がポップカルチャー発信地として認知され、この分野の企業も数多く出てきている。そとのコラボや連携を強化して参りたい。</li> <li>本校の声優学科生によるアイドルユニットもご当地色を強めているので地域のイベントにも積極的に出演交渉して参りたい。</li> <li>○卒業生にホームページを使ってイベント等を呼びかけ在校生との交流も図り、これにより学生のモチベーションを高め、意識をも向上させる場を提供していく。</li> </ul>
(5)学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>●前年度に引き続き学生のメンタルケアについてクラス担任とスクールカウンセラーが連携を図っている点は評価できる。</li> <li>●進路・就職に繋がる普段からの学生との連絡をネットを活用しながらサポートされている状況は良く理解できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スクールカウンセラーがより一層学生に相談しやすい環境を作るためにクラス毎にカウンセラー本人が相談内容の事例等の紹介を行っている</li> <li>○入学当初から本人及び保護者が不安に思っている事をクラス担任が電話やネットを活用し理解を深めている。保護者が仕事をしているケースが多いため、メールはコミュニケーションツールとして有効な手段である。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>●専門学校への進学を希望する学生の多くが経済的な面で親への負担を考慮している現状がある。入学希望者に対してその部分の丁寧な説明が必要ではないのか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本校の説明会等で高等学校での「学生支援機構の奨学金予約採用」があることを紹介したり、入学前からの紹介に努めている。</li> </ul>
(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実際に校舎を見学し、今年度教育設備の整備状況を視察することが出来た。併せて今後の整備計画・予定の説明を受け、学校の教育環境の取り組む姿勢が伝わってきた。</li> <li>●インターンシップの実績や個々の学生へのきめ細かいインターンシップの説明については評価出来る。 インターンシップに派遣される学生の事前の企業研究等の向上に努めて欲しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本校のポップカルチャー分野はデジタル技術進歩やスタイルの変化のサイクルが早く、学校としてもその対応の一貫として教育設備の更新を毎年業界動向を注視しながら検討していく。</li> <li>○この分野企業は特殊性があり、その特徴をインターンシップの説明時に学生に理解を深めさせる。それと同時にこれまで以上になるべく就職に繋がるようなインターンシップ先の開拓に努める</li> </ul>
(7)学生の受け入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学生募集に関しては、東京都専門学校各種学校の規程に則り、AO入学規程等適切に行われている事は評価できる。</li> <li>●ネットを活用した学生募集の重要性は理解できた。会社でもHPを使い様々な取り組みを行ったが、SNS等を利用した口コミの効果は高い。学校でも在校生や体験入学等の説明会参加者のコメントを掲載してはどうだろうか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高校生を中心に進学先の決定時期が早期化している。その中で本校では各入試制度をわかりやすく説明しその違いを理解してもらい各人に合った入試制度の選択を紹介している。単に出願時期を優先する指導にならないよう努めている。</li> <li>○在校生の活動状況を学科毎にHPのブログで毎週紹介している。その中には学生のコメントも掲載している。 その記事や学校行事をSNSに紹介はしているが、今後は在校生や体験入学者のコメントも積極的に掲載するよう努めていく。</li> </ul>
(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ほぼ定員通り入学者が集まっており、これにより収支のバランスは取れ、適切な財務運営が行われている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○財務状況は安定している。これに基づき適正な支出を計画性を持って遂行していく。</li> </ul>
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>●前年度に引き続き法令を遵守し、自己点検・自己評価を行うと共にそれらの情報を公開している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学内において学生による評価等を実施している。この評価結果とクラス担任からの意見を検討しより良い学校とするため課題への対応・改善を推し進めしていく。</li> </ul>

### 3. 総評

上記9項目に対し、委員による評価は良好であったことから、専門学校デジタルアーツ東京の教育活動、学校運営は概ね高い水準で維持されていると評価する。

企業が求めている人材育成については、学内での作品制作や課外活動を通じてクリエーター・アーティストとしての技能向上に対する取組等により成果を上げている。また、インターンシップへの取組は、事前の準備及び派遣による成果を企業との連携を図りながら実施されている。他に地域との連携も今後積極的に推進していくことの説明があり、好感がもてた。

学生募集についても入学希望者に丁寧な説明を心がけていることも学校の姿勢がよく分かる対応であり、引き続きお願ひしたい。今後、貴校のより一層の実践的教育の質の向上に対する努力の継続を望みます。